



2021年7月2日発行

第 115 号

事務局 〒161-0033 東京都新宿区下落合
1-3-16 ジョリーメゾンヌベル下落合205号
TEL/FAX 03-6457-3921
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp
<http://www.seishineisei.gr.jp/>

〈目 次〉

日本精神衛生学会第37回大会長挨拶……………1

日本精神衛生学会第37回大会のご案内……………2

理事長就任にあたって……………4

2021年新理事・常任理事一覧……………5

2020年度第2回理事会議事録概要……………5



日本精神衛生学会第 37 回大会長挨拶

日本精神衛生学会第 37 回大会長 水口 進(常磐大学)

せんそうのない時代に生まれたのに
なぜコロナなの
コロナとのせんそう
コロナにいつ勝つの
負けるの
青いおそら
すきとおった青いおそら
いつか胸いっぱい青いおそらをすってみたい

大会まで 6 ヶ月となりました。

関東、関西ではコロナ感染者数が激増し、緊急事態宣言が出されています。ここ水戸でもコロナ感染者数は減らず、まん延防止等重点措置が適用されています。コロナはいつまでわれわれの心の、精神の安寧を脅かすのでしょうか。

「子ども体験遊びリンピック」を大会特別企画に。そう考えて国立青少年教育振興機構の水澤豊子先生(現在は国立大洲青少年交流の家に勤務)に依頼しました。

今から 7、8 年前になるでしょうか。私は国立青少年教育振興機構からの依頼で「国立曽爾青少年自然の家」に出向き、体験の風をおこそうという企画に参加しました。そのときに水澤先生と出会いました。

“発達障害の子どもたちと亀仙人を探しての山歩き”

“合間合間に水澤先生と遊び歓談”

水澤先生から遊びの重要性を改めて学ばせてもらいました。今回、大会長をお引き受けしたとき、すぐに頭に浮かんだのが水澤先生でした。

「豊かな虚の世界を求めて」。これが今大会のテーマです。豊かな虚の世界を求めて。それは豊かな独りの世界を求めてと言い換えることもできます。

独りの世界で豊に戯れる、時を忘れて戯れる。今こそ、戯れることが重要な意味をもつのではないのでしょうか。

12月4日(土)、5日(日)、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

日本精神衛生学会第37回大会のご案内

日本精神衛生学会 第37回大会

-The 37th Annual Meeting The Japanese Association for Mental Health-

豊かな虚の世界を求めて

1.大会概要

日 程:2021年12月4日(土)・5日(日) WEB開催

配信会場:常磐大学

主 催:日本精神衛生学会事務局・日本精神衛生学会第37回大会実行委員会

後 援:常磐大学

大会HP:<https://seishin37th.qol-group.jp/>



大会HP QRコード

2.大会プログラム(予定)

【大会長講演】「豊かな虚の世界を求めて」水口進(常磐大学)

【大会特別企画】「子ども体験遊びリンピック」水澤豊子(国立青少年教育振興機構)

【シンポジウム】

- ・「あらためて「心の健康」とは何かを考える～ひきこもり、自殺の多発から見えるもの～」
高塚雄介(明星大学名誉教授)
- ・「津久井やまゆり園事件を考える-宇宙・自然・生命・人間-分化・多様・適応性と継承・相補・存在性を踏まえ-」
喜多祐荘(NPO 法人かでの湘南)
- ・「災害としてコロナ禍の支援を考える」
前田潤(室蘭工業大学)・森光玲雄(諏訪赤十字病院)・定池祐季(東北大学災害科学国際研究所)
松野千代美(小樽市立病院)
- ・「社会的養護における被虐待ケースのアフターケアのあり方について～地域とつながるということ、健やかな育ちを支える居場所づくり～」
佐名手三恵(社会福祉法人同仁会内原深敬寮)・安藤みゆき(茨城女子短期大学)・井出智博(北海道大学)
片根志雄(菅田養徳園)
- ・「放課後などデイサービスにおける支援の在り方とは-施設内での限られた時間で行うべき支援-」
渡邊雅史(一般社団法人クオリティ・オブ・ライフ)

【ミニ講演】

- ・「コロナ禍における飼い主の三者三様～開業獣医師の視点から～」水口勝之(みくまりどうぶつ病院)
- ・「発達障害と働くを考える～民間企業入社4年目を迎えて～」榊田温子(東日本旅客鉄道株式会社水戸支社)

【ポスター発表】

【オンライン交流会】

3.参加登録

1)登録方法:大会ホームページの「WEB 申し込み」にて必要事項を入力し、送信してください。

2)参加費:

	学会員	非会員	学生
参加・発表	4,000円	5,000円	2,000円
オンライン交流会	無料		

3)振込先:準備中です。整い次第、大会ホームページでご案内いたします。

4)ポイント:臨床心理士:2ポイント取得となります。

日本精神神経学会専門医単位:B群3単位取得となります。

4.ポスター発表登録

1)発表資格

・代表発表者となるためには、①～④の条件を満たす必要があります。

①大会参加の時点で、日本精神衛生学会の会員であること。

②2021年度までの年会費を納入していること。

③参加申し込みを2021年8月31日までに完了し、参加費を納入していること。

④抄録集の原稿を2021年9月24日までに投稿していること。

・連名発表者

参加申し込みを2021年8月31日までに完了し、参加費を納入していること。

会員・非会員にかかわらず、どなたでも発表いただけます。

2)演題申込

大会ホームページの「WEB 申し込み」より、必要事項を入力・送信した上、お申し込みください。

3)抄録集への掲載

・提出期限:2021年9月24日(金)

・提出方法:tjamhinmito@gmail.com へお送りください。書式等の詳細は個別に連絡いたします。

5.大会に関する問い合わせ

大会ホームページの「お問い合わせフォーム」から送信してください。

6.実行委員

大会長:水口進(常磐大学)

実行委員長:下山田理絵(常磐大学心理臨床センター)

顧問:影山隆之(大分県立看護科学大学)

実行委員:足立拓哉(ひたち野こころのクリニック)

田山真稀子(医療法人聖和会つくば病院/社会福祉法人照桑福祉会るんびにー)

森田ひろみ(公益社団法人いばらき被害者支援センター)

星野晃平・星野知実(社会福祉法人同仁会)

渡邊雅史・川崎智寛(一般社団法人クオリティ・オブ・ライフ)

理事長就任にあたって

影山 隆之(大分県立看護科学大学)

パンデミックの嵐に世界中が翻弄された 2020 年度は、日本精神衛生学会にとっても、市民向けのアピールを発したり、初のリモート大会を開催したり、学会理事の定期改選作業が遅れ旧理事の任期(12月まで)を3月まで延長するよう常任理事会で臨時決議したりと、忘れられない年になりました。ようやく改選が成り、新理事会(3月)で理事長としてもう一期働くようにとご指名を受けた次第です。任期(～2023年12月)の間に何をすべきか、皆様からご意見をいただきつつ考えたいと思いますが、とりあえず考えていることを挙げてみます。

第一に、継承すべきことは堅実に継承しなければなりません。事務局業務を委託しているメンタルヘルスビューローが1月から移転したり、事務局長を長年務めてくださった中野理事のご勇退に伴い馬淵理事に事務局長をお願いしたりという変更はありますが、新事務体制を早急に確立したいと考えます。酒井編集委員長は留任してくださったので、学会誌とニュースレターの編集作業は安泰でしょう。また 2021 年秋の第 37 回大会もリモート開催となりますので、水戸の水口大会長をお支えして、これを成功させたいと思います。2022 年大会は神戸の船越大会長にお願いする予定で、これから 2023 年について検討してまいります。

第二に、着手しているが未完の仕事を完成させます。学会員名簿を昨年度中に発行することができませんでした。前事務局長のお力を借りてできるだけ早期に発行します。学会誌バックナンバーの掲載論文を J-Stage に搭載する作業は、編集委員会の力によって確実に前進しています。これによって、学会誌と学会の存在感が高まることを期待します。

第三に、変えるべき点を洗い出し、時代の要請に応えるような学会運営を目指したいと思います。これまで常任理事会がこうした実務に係る意思決定をしてきましたが、先日リモート開催した新理事会では幸いにして、多くの方々が率先して常任理事に就任してくださいました。リモート開催ゆえ、首都圏以外の理事もご参加いただけることとなったので、新しい力を結集して新しい枠組を考えたいと思います。

まず、予算上の制約から紙媒体での印刷を休止してきたニュースレターを、再び印刷・郵送する可能性について検討します(幸い当時よりは財務事情が好転してきました)。とりあえず、理事会等の議事録要旨を掲載し、メールアドレスがわかる会員には PDF ファイルでも送付します。会員数を増やす助けになればと願います。また、「学会重点課題」の見直しも必要と考えます。社会的に大切な課題ではあっても、それについて「学会として重点を置く」とは何を意味するか、それを計画し遂行するための人的体制をどうするか、ということの明確化は必要です。これは MCRT についても同じです。

これらの活動と財務基盤を支えるには会員数の増加が必要ですが、人が足りないからと言って何もしなければ会員増加も見込めません。まずは現有勢力で最善を尽くし、それを見た若手精神衛生家が「これをマイ学会の一つにしたい」と思えるような活動を実現したいものです。そのために、皆様のお力をどうぞお貸しください。

2021 年 新理事・常任理事一覧

▶ 理事長	影山 隆之	▶ 副理事長	中野 良吾	
▶ 事務局長	馬淵 麻由子	▶ 編集委員長	酒井 佳永	
▶ 常任理事	阿部 裕 上別府 圭子 津川 律子 馬淵 麻由子	大西 守 加藤 純 中野 良吾 丸山 総一郎	岡本 淳子 菅野 恵 西村 靖史 吉岡 伸一	影山 隆之 酒井 佳永 福島 眞澄
▶ 理 事	阿部 裕 牛島 定信 大西 守 加藤 純 喜多 祐荘 齋藤 和樹 高塚 雄介 傳田 健三 西村 靖史 船越 明子 水野 淳一郎	天海 久 鉅鹿 健吉 岡本 淳子 狩野 武道 倉島 徹 酒井 佳永 瀧澤 透 中野 明德 早川 東作 馬淵 麻由子 元永 拓郎	雨宮 由紀枝 大島 巖 荻田 純久 上別府 圭子 黒岩 誠 坂本 真士 田中 秀樹 中野 良吾 廣 尚典 丸山 総一郎 山口 義枝	浮田 徹嗣 大辻 隆夫 影山 隆之 菅野 恵 小泉 典章 高下 梓 津川 律子 賛川 信幸 福島 眞澄 水口 進 湯淺 和彦
▶ 監 事	重村 朋子	武井 麻子		

(五十音順、敬称略)

2020年度第 2 回理事会議事録概要

日時：2021 年 3 月 30 日（火）19:00～20:30

会場：Zoom にてオンライン開催

出席（順不同、敬称略）：大西守、岡本淳子、鉅鹿健吉、影山隆之、加藤純、上別府圭子、菅野恵、阿部裕、酒井佳永、津川律子、中野良吾、早川東作、福島眞澄、浮田徹嗣、倉島徹、黒岩誠、武井麻子、中野明德、吉岡伸一、西村靖史、高塚雄介、馬淵麻由子、牛島定信、大辻隆夫、傳田健三、廣尚典、服部希恵、福島裕人、湯淺和彦、天海久、雨宮由紀枝、賛川信幸、荻田純久、齋藤和樹、高下梓、瀧澤透、船越明子、丸山総一郎、水口進、山口義枝（計 40 名）

欠席：8 名 委任状：6 通 （記録担当事務局員：井口）

I. 旧理事会

1. 第37回大会について

第37回大会（12月4日、5日開催予定）について水口大会長より報告があり、チラシを学会ホームページにアップロードすることを承認した。大会参加で臨床心理士と精神科医ポイントが付与されるように手続きを行う予定。

2. 役員選挙について

選挙結果は別記参照。中部地域の理事に関しては該当者なし、よって定数25名に対し24名当選。分野別理事のうち「地域・社会・文化」分野は該当者なし。他に理事長推薦枠として37回大会の水口進大会長と38回大会の船越明子大会長が推薦され、承認された。よって、地域別理事24名、分野別理事19名、理事長推薦枠2名の計45名が新理事となった。

II. 新理事会

1. 理事長の決定

新理事の任期は2021年3月から2023年12月31日までの3年間となる。理事の互選により、影山理事長が選ばれた。

2. 新理事会人事について

副理事長に中野理事が指名され、事務局長に馬淵理事、編集委員長に酒井理事が委嘱された。監事として武井麻子氏と重村朋子氏が理事長から推挙された（注：後日、就任が受諾された）。

これまでは常任理事会への参加や交通費の捻出を踏まえ首都圏で活動している理事が中心となる傾向があったが、リモート会議が開催できるならば、地域による制約は発生しないことになる。理事長、副理事長、事務局長、編集委員長の4名は常任理事となることが承認され、さらに10名が立候補して承認された。（注：理事会終了後、もう1名の出席者から立候補があり、後日メール稟議で承認された。）よって影山、中野良、馬淵、酒井、加藤、菅野、西村、福島、阿部、吉岡、岡本、津川、上別府、大西、丸山の14名（順不同）が常任理事となった。

大会長が常任理事となる規定の有無について確認があり、明確な規定はないことを確認した。ただし常任理事会にオブザーバとして参加することに妨げはない。

3. その他

- 1) 新理事から挨拶があり、所属の変更を確認した。
- 2) 前理事・監事の斎藤高雅先生のご逝去が報告された。
- 3) 土居記念賞の選考委員長として、前委員長（大西理事）から推薦された上別府理事が承認された。他に選考委員として廣・中野理事が選ばれ、さらに影山理事長・馬淵事務局長が職務上委員として加わることを承認した。
- 4) ニュースレターについて、予算上の事情でウェブ上の公開のみとしてきたが、これを紙媒体に戻すことの得失について、理事長の発議により討論した。メールアドレスは全会員の7～8割ほどを把握しており、それ以外の会員には発行のお知らせができずにいる。紙媒体の利点はあるので、ホームページと紙媒体の両方での発行が予算的に可能かどうか検討することとした。ただし、現在は発行をメール周知する際にURLのみ通知しているが、PDFファイルでも添付することは直ちに可能なので、次号から実行することとした。なお、以前は広報の一環として全国の精神保健福祉センターにも送っていたとの指摘があった。
- 5) その他、今後の検討点について、日本学術会議団体からの転送メールにより学会からの連絡が紛れてしまう状況があるとの意見があった。MCRTの方向性について検討を深めることとした。名簿は新年度の予算で作成する。高塚先生より書籍のご紹介があった：『ひきこもりの理解と支援～孤立する個人・家族をいかにサポートするか』。